

26 レタス（非結球レタス含む）

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	施用の目安等
有機質資材 施用技術	<p>○たい肥等有機質資材施用技術 土壌診断に基づき、適切に完熟たい肥等を施用する。</p> <p>○緑肥作物利用技術 緑肥作物（ソルゴー等）を栽培し、作付け前にすき込む。</p>	完熟堆肥 2 t /10a
化学肥料 低減技術	<p>○局所施肥技術 局所施肥により肥効率を向上させる。</p> <p>○肥効調節型肥料施用技術 被覆肥料等の利用により肥効率を向上させる。</p> <p>○有機質肥料施用技術 有機質肥料（油かす等）を用いた施肥体系とする。</p>	化学合成窒素量 ・ 秋どり（11～12月） 9kg/10a 以内 ・ 冬どり（12～3月） 15kg/10a 以内 ・ 春どり（4～5月） 4.1kg/10a 以内
化学農薬 低減技術	<p>○機械除草技術 除草機械により雑草（畦畔での害虫発生助長植物も含む）を駆除する。</p> <p>○生物農薬利用技術 生物由来の有効成分である農薬の利用により病害虫を駆除する。 ・ 生物農薬：B T 剤（材カゴカ、ハモンヨウ、ヨウムシ）など</p> <p>○抵抗性品種栽培・台木利用技術 耐病性品種の栽培により病気等の発生を抑制する。</p> <p>○熱利用土壌消毒技術（育苗期） 太陽熱などの利用により土壌病害虫を駆除する。</p> <p>○光利用技術 色彩粘着板利用（育苗期）により害虫を捕殺する。 黄色蛍光灯（育苗期）や光反射資材利用により害虫の活動抑止や忌避させる。</p> <p>○被覆栽培技術（育苗期） 被覆資材により有害動植物の付着を防止する。 ・ 防虫ネット（アブラムシ類、ハモンヨウ）など</p> <p>○フェロモン剤利用技術 フェロモン剤の利用により害虫の大量誘殺や交信を攪乱させる。 ・ リトルア剤（ハモンヨウ）など</p> <p>○マルチ栽培技術 紫外線反射マルチ、生分解性マルチ、稲わら等利用により有害動植物のまん延防止する。</p>	化学合成農薬成分回数 ・ 秋どり（11～12月） 9成分以内 ・ 冬どり（12～3月） 10成分以内 ・ 春どり（4～5月） 7成分以内
<p>その他の留意事項</p> <p>有機質肥料を使用する栽培では厳寒期の肥効が悪くなるので保温に注意する。</p> <p>有機質資材施用で肥料効果が期待できる時は減肥する。</p> <p>連作障害回避のため輪作に努める。</p> <p>菌核病防除のため、夏期に20日以上湛水する。。</p> <p>発生予察を活用し適期防除に努める（ハモンヨウ）。</p> <p>収穫後の残さは、適切に処分する。</p>		